

One Earth Guardians 育成プログラム

2024年度 活動報告書

機構長ご挨拶

日ごろより One Earth Guardians 育成プログラムの活動にご支援とご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

農学部生を対象に始まった One Earth Guardians 育成プログラムは、2022年度からすべての学部・研究科に門戸を広げました。そして2024年度の秋には、社会人と学生とが共に受講する「共生型新産業創出コロキウム」という新たな講座を開始しています。シンガポール国立大学との交流も始まり、高校生らを対象とした Good Life on Earth も含め、One Earth Guardians の“巻き込み”はさらなる広がりを見せています。

これらの活動は、東京大学基金「One Earth Guardians (地球医) 育成プログラム支援基金」を通じた皆さまからのご支援によって支えられています。いただいたご寄附は、学生が社会の現場で実課題に取り組む実学研修の費用のほか、プログラムの充実のために大切に活用させていただいております。

現況、ひとつしかない地球の未来を救うには、残された時間は少ないのかもしれませんが、One Earth Guardians たちを育み、仲間を増やしていくために、今後も皆さまの末永い応援とご支援をお願い申し上げます。



2025年6月
東京大学 大学院農学生命科学研究科長・農学部長
One Earth Guardians育成機構長

東原和成



One Earth Guardians (地球医) 育成プログラム支援基金
教育から社会をかえる ～100年後の地球のために～



アドミニストレーターより

こんにちは。日々のプログラムの運営を担っているアドミニストレーターです。

皆さまとご縁をいただき、ともに歩んできたプログラムも8年目に入りました。

この3月は、プログラム最初の受講生として迎えた1期生のうち博士課程に進学していた3名が大学を巣立ち、1期生全員を社会に送り出した感慨深い春となりました。何の前例も実績もないこのプログラムに飛び込んでくれた彼らにあらためて感謝するとともに、これからの活躍を心から応援しています。

また新たな試みとして、関係者の語る言葉を通してプログラムを伝えていくインタビュー連載を公式noteにて始めました。私たちアドミニストレーターも登場していますので、ぜひご覧ください。



One Earth Guardians 育成機構
アドミニストレーター

中西 もも・岩崎 茜・山口 空

日々の活動の様子を伝える SNS をぜひフォローしてください



OEGs WEBサイト



YouTube



Facebook



Instagram

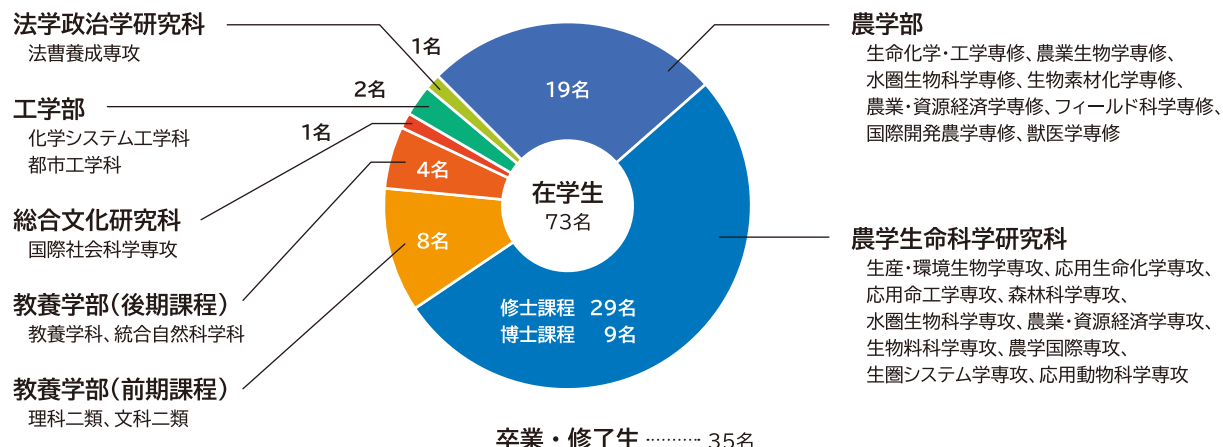


note

プログラムに参加した学生の分野と学年分布

(所属・学年は2025.06 現在 | 第1期～第8期)

One Earth Guardians 育成プログラムは、2018年度から農学部の学生を1期生に迎え、2022年度(第5期)からは全研究科・学部・卒をを広げました。現在は、さまざまな専門分野の学生が参加し、教養学部前期課程の学生から博士課程の大学院生まで幅広い学年の受講生が在籍する層の厚さも特徴となっています。2024年度は、教養学部前期課程の1年生5名を含む、16名の7期生が新たに参加し、2025年4月、さらに教養学部前期課程の1年生2名、2年生4名を含む17名の8期生が参加しました。



OEGs受講生の進路

株式会社雨風太陽 / 出光興産株式会社 / 株式会社エスネットワークス / NHK / キーコーヒー株式会社 / 株式会社サンケイエンジニアリング / 株式会社シグマクス / 株式会社スマートブルー / 住友化学株式会社 / 一般社団法人全国農業協同組合中央会 (JA全中) / 株式会社日本総合研究所 / 日本たばこ産業株式会社 (JT) / 株式会社日立ハイテク / ポストン コンサルティング グループ / マッキンゼー・アンド・カンパニー / マックス・プランク研究所 / 株式会社リクルートホールディングス / Unite Partners株式会社 / 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 / 大阪大学 / 東京大学 / 外務省 / 環境省 / 東京都庁 / 農林水産省 / 林野庁 など

OEGs受講生の声

(受講生のレポートをもとに一部再編しました)

4期生 農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻

理論をこねくり回しすぎると直感が鈍り、結果として本質を見失うことがある。一方で、直感に頼りすぎると、環境に良いと思うことが理論的にそうでもないことがある。バランスをどう取るか今後も意識していきたい。

5期生 農学生命科学研究科 生物材料科学専攻

実学研修で様々な方の意見を聞くことで、自分の考えがより明確になったり変わったりしていくと同時に、自分自身を見つめ直すことにもつながりました。「目的と手段を混同しないこと」「他の立場からの意見を聞くこと」が大切だという気づきを得ました。

6期生 教養学部前期課程 理科二類

ある化学・生物学的現象を技術として実用化しようとする時、現象をどのように応用するか、伴うメリット・デメリットは何かという大局的な視点と同時に、ミクロレベルでのメカニズムを理解する視点も欠いてはいけないのではないかと考えるようになった。

7期生 農学部 水圏生物科学専修

研究者は技術を開発するだけでなく、ボトムアップ的な活動に対して科学的な根拠を提供して支援することも一つの役割だと思いました。

5期生 農学生命科学研究科 森林科学専攻

どれだけ自然や動物に対して繋がりを感じていたとしても、私が人間である以上他の生物と人間は等しいと考えることはできない。全ては人間のエゴであるが、その中でも私たちが生きる環境に対して敬意を払い大切にしようと、行動に起こしているというのが私の環境への価値観であることを認識させられました。

5期生 農学生命科学研究科 農学国際専攻

多くの人に触れるほど、その人と生活を守るために自然が部分的に犠牲になるということへの違和感が減っていってしまうが、この発想では、これまで地球環境を荒らしてきた人間と同じ轍を踏むことになるという危機感もあります。「地球上の生物について」というスケールを広く持つ思想が自分の視点から無くならないよう常に意識しつついたい。

6期生 教養学部前期課程 文科三類

難しい問題だから手をつけないというのは、宿題がたくさんあるから手をつけたくなくなるのと似た危険性を帯びている。大きい変化や即効性にばかり飛びつくのではなく、地域の環境問題から動き始めること、その動きを広げること、声を上げ続けることが大事なんじゃないかと思いつつある。

6期生 農学生命科学研究科 応用生命工学専攻

持続可能性の視点が自身の研究にどう組み込まれるのか、実際の課題解決に活かされているのかを知ることで、研究と社会の接点をこれまで以上に意識するようになった。積極的に応用の可能性を探り、研究者自ら発信し行動することの重要性を強く感じた。

7期生 教養学部前期課程 理科二類

先に繋がるかを机上の空論で判断する前に、チャンスを活かして話を聞き自分でも考えること、楽しいとワクワクする方向に身を任せてみることも大事なのだと、OEGsの活動を通してようやく納得することができました。

7期生 農学部 生命化学・工学専修

研究成果を社会にインパクトある形で還元するには、知識や技術を持っているだけでは不十分であり、現場の実情を深く理解してニーズを掘り下げること、その後はひたすら泥臭く行動して、結果を見ては改善を繰り返していくことが重要であると感じた。

「ワン・アースロジー」実学研修

社会とのかかわりの中で学ぶことを通し、科学の基礎力と俯瞰力を課題解決につなげる力を培うため、協力企業・NPOなどと受講生が共に取り組むインターンシップです。教員も交えながら産業界や社会の実課題に向き合い、協働創出の場ともなります。

OEGs 認定科目「ワン・アースロジー I・II・III」において実施します。

2024年度中は14件（参加学生30名）が進行しました。学生が自ら提案し、関係する組織や外部の方々を巻き込んで主体的に行う活動も増えてきています。

プログラムアレンジ



味の素株式会社

発酵は食と地球を救えるか？～サーキュラー・バイオエコノミーを発酵で考える～

実施期間:2024.07 - 2025.03



住友林業株式会社

森林との持続可能な未来を考える

実施期間:2024.07 - 2025.03



株式会社ダイセキ

未知の活性をビジネスにする～活性汚泥の物質×代謝を解明する道筋とビジネスモデルを作ろう～

実施期間:2024.06 - 2025.03



株式会社 chicabi / 株式会社千葉牧場

人と動物と地球の幸せを考える

実施期間:2024.07 - 2025.03



東洋水産株式会社

『生産活動における食品ロス削減とリサイクルの模索(2024)』～食品残渣や廃プラスチック等の再資源化～

実施期間:2024.07 - 2025.03



中屋敷ファーム

地域資源による循環型畜産の挑戦の現場で、次世代につなげる豊かな畜産業を考える

実施期間:2024.08 - 2024.09



公益社団法人 MORIUMIUS

リジェネラティブ農業や海洋環境の変化から、こどもや町のサステナブルな未来につなげる

実施期間:2024.07 - 2025.03



横河電機株式会社

海の Nature Positive ～100 年後の健全な海洋生態系を目指して～

実施期間:2024.07 - 2025.03

受講生発の企画



1期生 室智大さん

人々の身近な生物環境に対する認識の向上を目指して:自然観察会の効果検証と昆虫-植物相互作用データベースの構築

実施期間:2022.12 - 2024.10



4期生 津旨まいさん・5期生 広瀬知弘さん・6期生 山崎美怜さん / 株式会社ワークライフスポーツ

農学×サッカー サッカークラブを活用した地域資源の持続可能な利用を考える 他

2024.04 - 進行中



4期生 松岡怜さん / 公益財団法人オイスカ

太平洋島嶼国における Nature-based Solutionsの実現に向けた活動(仮)

実施期間:2023.05 - 進行中



5期生 志賀智寛さん / NPO法人福島ギフトーズ

同世代を巻き込んだクラフトビール開発による飯舘村の復興支援

実施期間:2023.04 - 2025.02

5期生 竹内誠一さん

水産業のDX化に向けた、漁獲情報管理WEBアプリの開発

2024.11 - 進行中

7期生 大瀧春樹さん / 東京海上アセットマネジメント株式会社

島根県松江市の藻場再生手法とカーボンクレジット取得方法の調査、提案

2024.11 - 進行中

One Earthology Seminar

100年後のありたい姿やどんな地球に生きていたいかを思い描きながら、学び、話し、考える One Earthology 協創の場。学生・教員・企業などと、異なる背景を持つ参加者が同じテーブルにつき、多様な視点を交えて対話するワークショップです。

2024年度は「生命」「虫」の2テーマで開催



LUC Lecture

Learn and Unwell through Conversation

LUCには「光」という意味があります。学外、学内の講師によるレクチャーを受け、意見を交換することで、これまで見ていなかったこと・知らなかったことに目を向け、考える「＝光をあてる」ための学びの場とします。



共生型新産業創出 コロキウム

2024年10月に開講した新講座。新しい共生型産業の創出を目指して、社会人も参加し、学生と共に学びます。

公開シンポジウム

100年後の地球のために、いま皆さまで考えたいことをテーマに据え、どなたでもご参加いただける公開シンポジウムを開催しています。

コラボレーション企画

企業やプロジェクトとのコラボレーションにより、特定のテーマや課題を深掘りし、協働と One Earth Guardians としての提案につなげます。受講生のアイデアをもとにした製品や、映画プロジェクトとの連携など多彩な活動が行われています。

活動の発信

各種ガイダンスや五月祭、駒場祭などに出席し、学内外へOEGsの理念や活動を広く伝える活動を行っています。2024年度は、東京大学農学部広報誌『弥生』にも掲載されました。



高校生・大学生の「好き」を応援!

Good Life on Earth

2022年度に始動し、3年目を迎えた
プログラム「Good Life on Earth」の主な活動を報告します



Good Life
on EARTH



Good Life on Earthは、自身が夢中になれる“何か”を切り口とした地球の未来につながるアイデアを抱き、その実現に向け自ら挑戦する高校生・高専生・大学1-2年生を応援するプログラムです。「好き」を伸ばして地球を救う、共に学び合うフィールドとして、東京大学 One Earth Guardians育成機構と、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金が共同で実施しています。

3期生プレイヤー7名が加入

177件の応募から7名の採択者(高校生5名、大学生2名)が3期生として決定。
2024年9月14日～16日に本郷・弥生キャンパスにてキックオフを実施しました。

※各プレイヤーの所属・学年等は採択時点のもの



池田 心咲さん
鎌倉女学院高等学校2年



笠井 凜心さん
東京都立西高等学校1年



基島 隆蔵さん
ラ・サール高等学校2年



草尾 航太郎さん
熊本県立熊本高等学校2年



楠 ゆずはさん
広島大学2年



清水 美那さん
一橋大学2年



林 美羽さん
神山まるごと高等専門学校1年

全員参加型セッション

BUMP #4 | Exa Innovation Studio, Inc 方 健太郎氏 (2024.06.15)

「これから遭遇する「人生の選択」を想像しよう」

「尖った先達に出会い、衝撃を受ける」BUMPの第4回のゲストスピーカーは方 健太郎氏。



CROSS #4 | アート脳ワークショップ (2024.10.13)

講師: 青柳美どり氏

「互いに交わり刺激し合う」CROSSとして、アートを通して感性をひらくワークショップを開催。



フィールドトリップ in 京都 (2024.10.26-27)

「京都から望むLife」をテーマに、京都大学附属 花山天文台と京都大学総合博物館、東寺、堤浅吉漆店を訪問。



BUMP #5 | 立教大学 奇二 正彦 准教授 (2024.11.27)

「ネイチャーポジティブとスピリチュアリティ〜自然に対する価値観を問い直す〜」

立教大学 奇二 正彦准教授をゲストスピーカーに招いたBUMP 第5回はOEGsの第15回 LUC Lectureと合同で開催。

中間発表(2024.12.14)／年度末プレゼン(2025.03.22)

各プレイヤーからプロジェクトの現在地と今後の構想を発表し、フィードバックを受けた。メンターらのほか、豊田理化学研究所やトヨタコンボン研究所からもゲストが参加。



プレイヤーの活動記録



GLEラボで酵素の活性を測る平塚さん



研究対象とするミミズを探す草尾さん



食感に関する試食会を行う清水さん



GLEラボでレーザーカッターを使う谷垣さん



環境音のフィールド・レコーディングを行う田中さん

GLEプレイヤーのための「GLEラボ」が本郷キャンパスに整備されました。ラボマネージャーが常駐してサポートするほか、実験設備も順次充実させています。

Good Life on Earth
WEBサイトはこちら



活動の様子は、
プログラム公式SNS
でも発信しています



ぜひフォローしてご覧ください